

オミックスデータより見出した 新規肥満遺伝子の解明

＜研究者＞渡邊 和寿（代表）

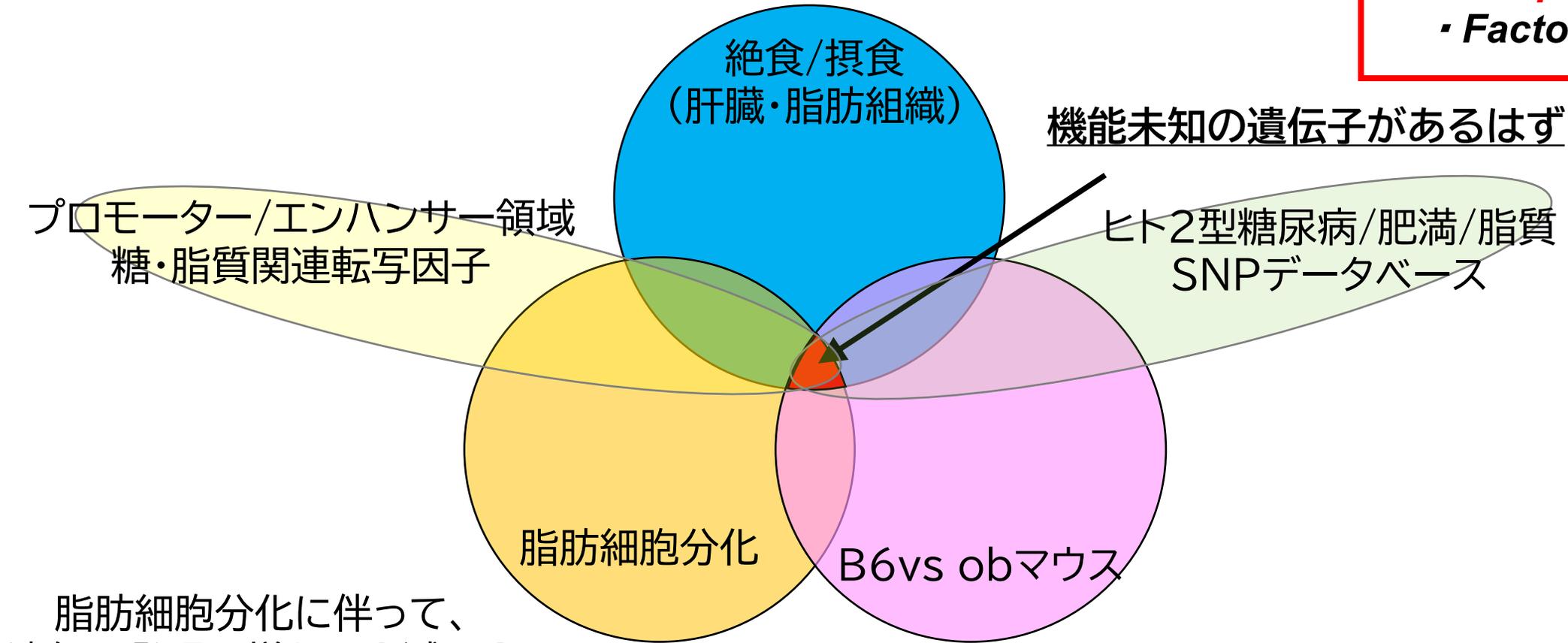
東京家政大学ヒューマンライフ支援機構
プロジェクト研究助成費

目的 独自に見出した新規肥満関連遺伝子 *N4bp2l1* の解析

絶食・摂食における遺伝子発現の差はあるか？

- ・ *Kbtbd11*
- ・ *N4bp2l1*
- ・ *FactorX*

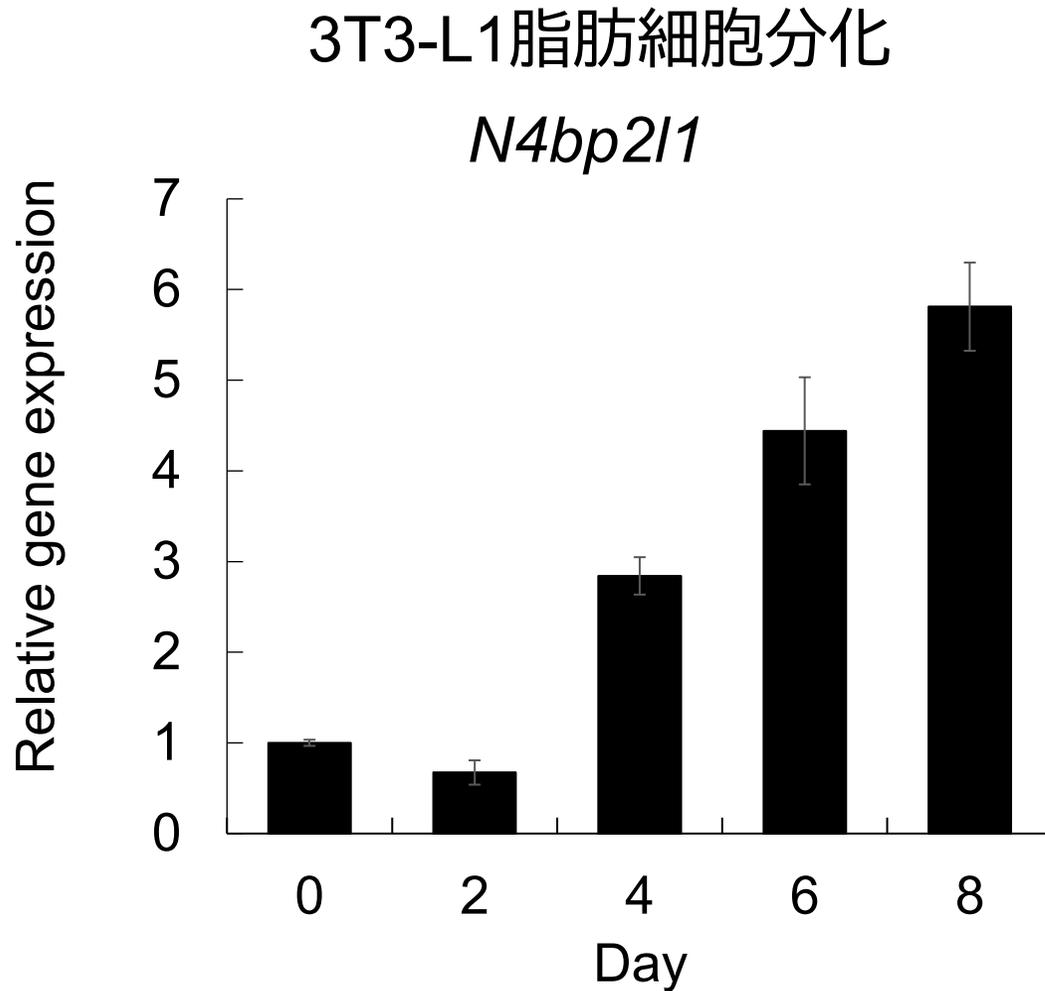
機能未知の遺伝子があるはず



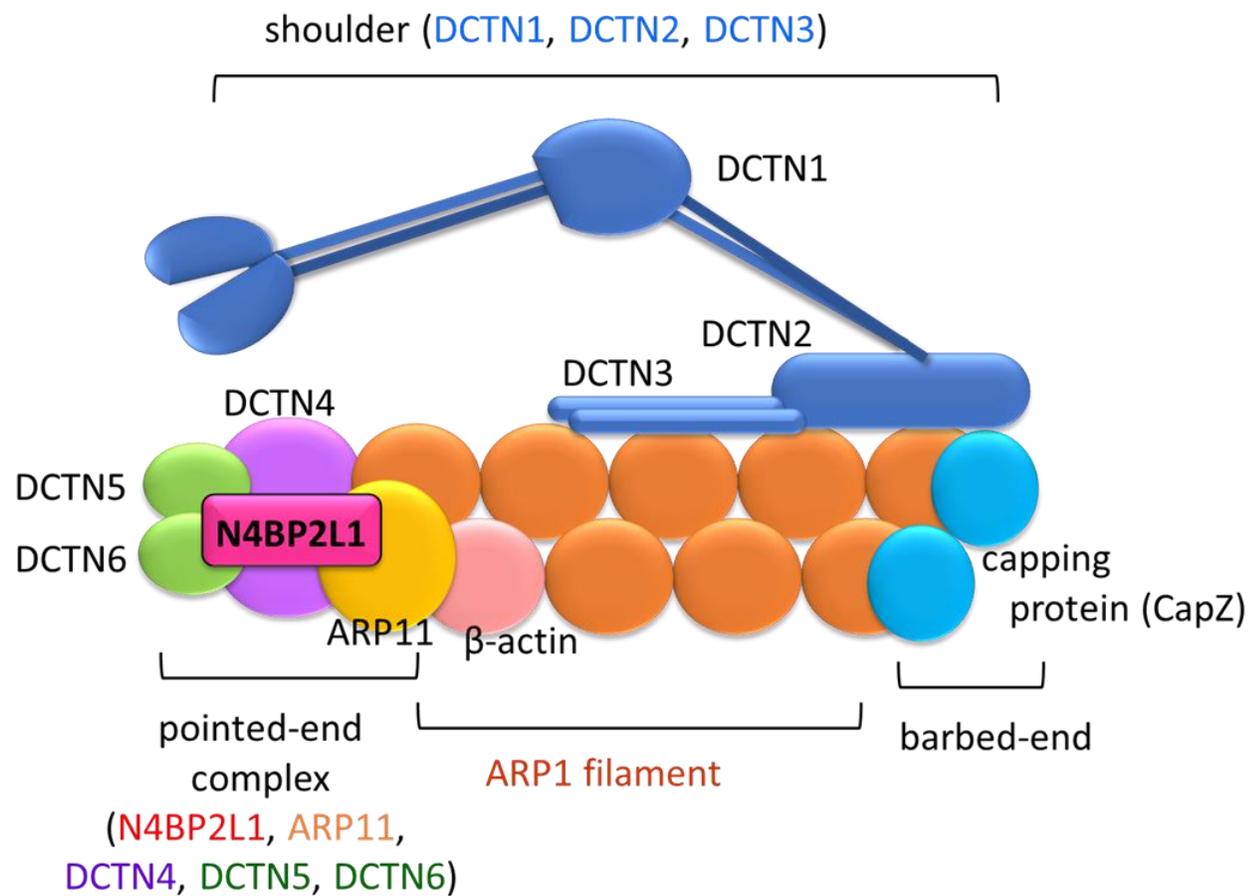
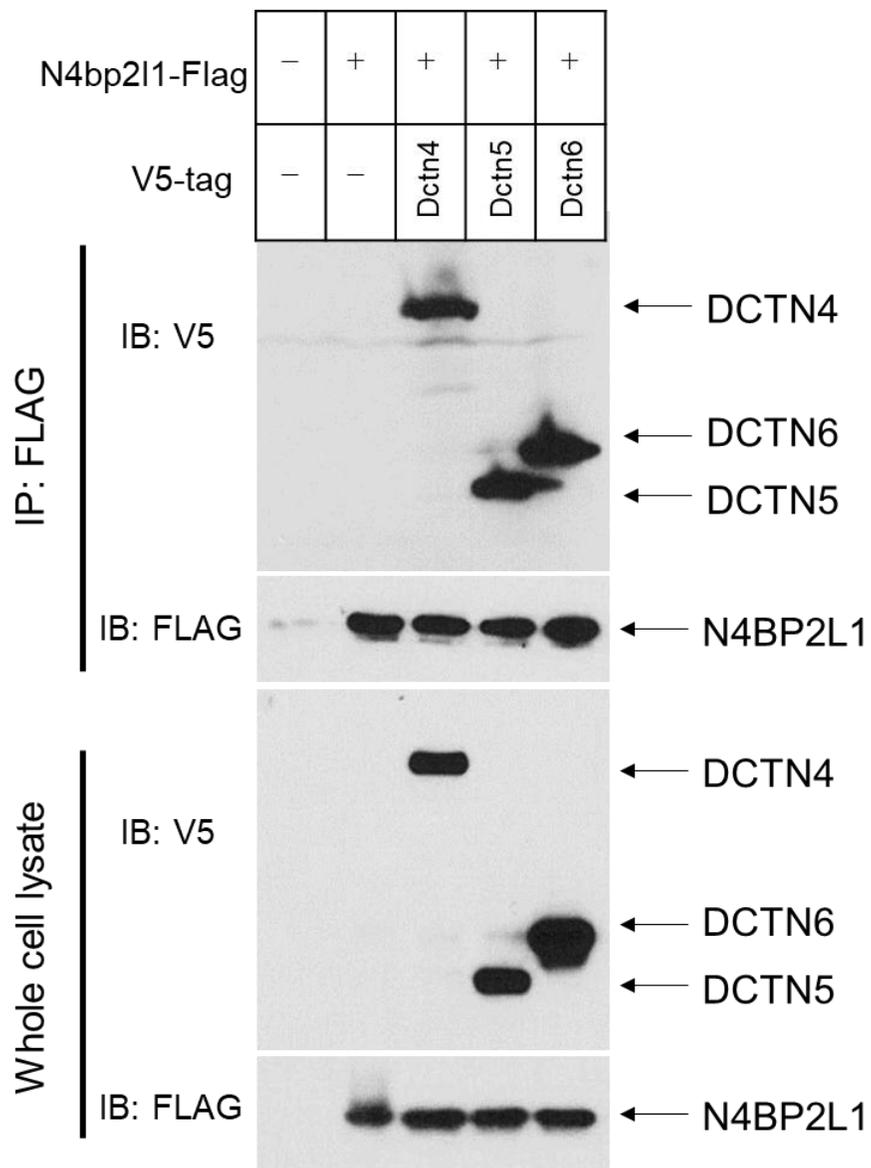
脂肪細胞分化に伴って、
遺伝子発現は増える？減る？

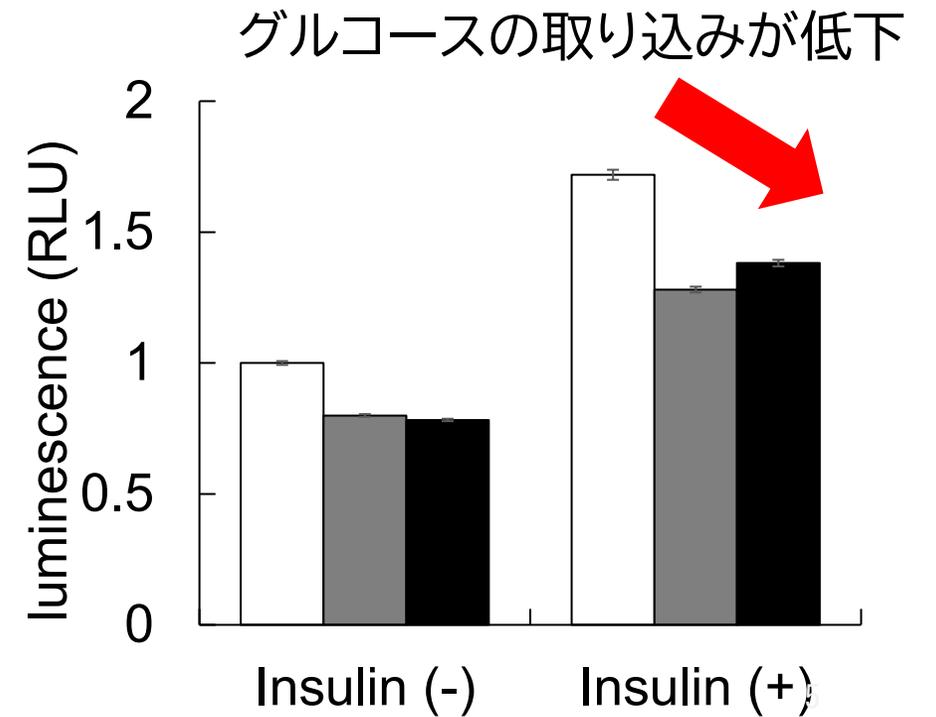
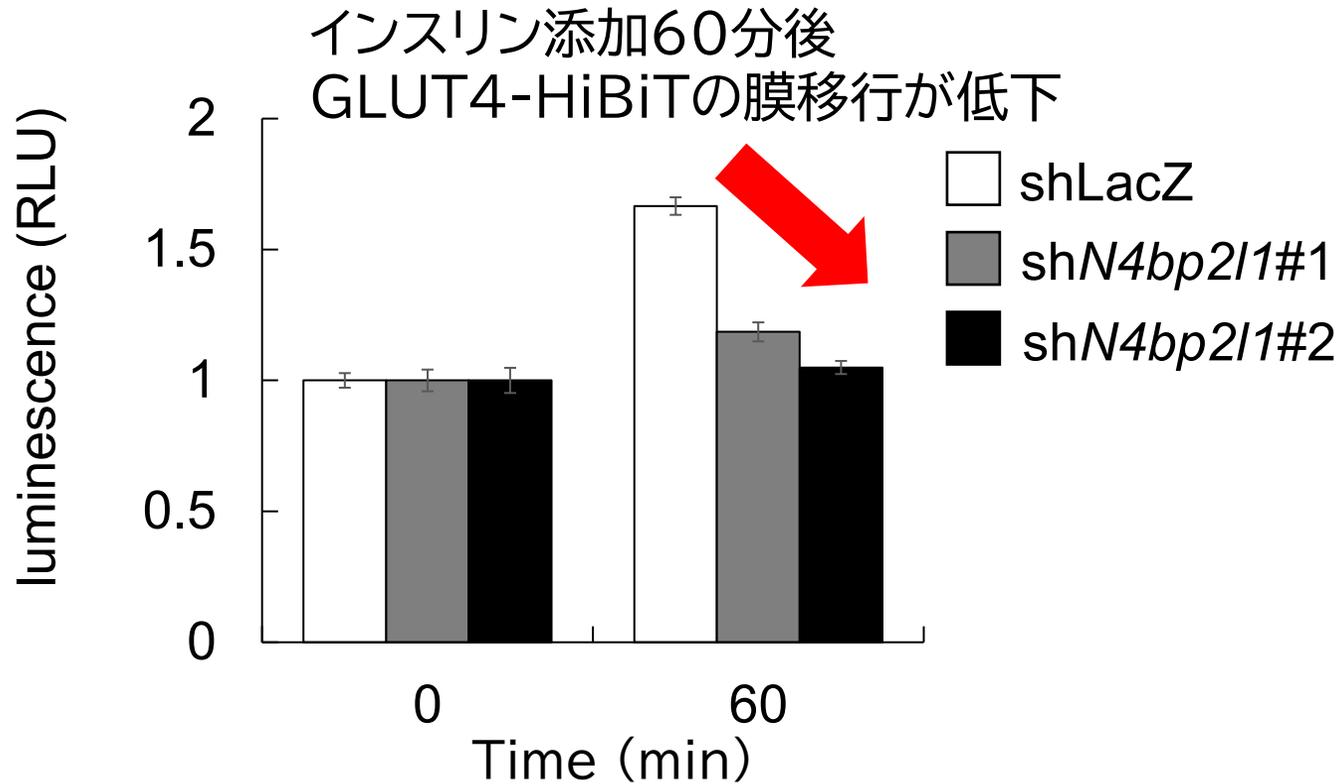
野生型と肥満型での遺伝子発現の差は？

N4bp2l1ノックダウンにより3T3-L1脂肪細胞分化が抑制される



N4BP2L1はダイナクチンと複合体を形成





・N4BP2L1がダイニン・ダイナクチンと相互作用し、GLUT4を介したグルコースの取り込みに影響を与え、脂肪細胞のホメオスタシスに関与することが示唆された。

・、N4BP2L1が肥満病態形成やメタボリックシンドロームに関与する可能性が考えられた。